

長野県支部

地域商店街活性化に関する調査研究

長野県佐久市にある岩村田本町商店街は、地方都市の商店街が抱える大きな2つの問題、売り手がいない＝空き店舗の問題、買い手がいない＝集客の問題に正に直面していた。平成13年3月岩村田本町商店街振興組合は、これらの問題に真摯に向き合い「佐久岩村田本町商店街活性化計画報告書 われらの街を、ともにつくろう」を作成し、自分たちの商店街には何があり、何が足りないのか、成長発展させるためには何をどうすべきか、という道筋を明確にした。

そして約10年の年月を経て、商店街は空き店舗がほとんどない状態にまで回復し、商店街のおかみさんたちが立ち上げた手作りの総菜店「本町おかげ市場」は、大勢のお客さんで賑わうまでになった。

今回の調査研究においては、この岩村田本町商店街を題材として、活性化構想の現状の検証、地域商店街の再生に向けての提言などを行っている。

第1章 長野県の商店街の概況と岩村田商店街を取り巻く環境

ここでは、長野県商工労働部の各種資料を基に、長野県の商店街の数が昭和56年以降減少し続けていること、空き店舗の要因、直面している課題などを取り上げ、県内商店街の現状を示したうえで、岩村田本町商店街が位置する佐久市の概況と岩村田の歴史と今を記載している。

第2章 商店街活性化構想（平成12年度）と現状の検証

商店街活性化構想には、商店街の経営理念、コンセプトを明確にしたうえで、事業戦略、その戦略実現のためのマネジメント、行動指針が示されており、これに基づいて具体的な店舗展開、空き店舗対策、集客対策を実行していった。当時の構想を振り返ると同時に実践活動の結果、現在どう変化したのかを実施調査し、検証している。

第3章 岩村田本町商店街振興組合アンケート調査結果と分析

商店街の個店に対してアンケート調査を実施し、5年前と比べて売上状況や顧客状況がどう変化しているか、あるいは現在の経営課題は何か、商店街の事業・イベントの影響などについて分析している。

第4章 地域商店街の再生に向けて

まとめとして地域商店街が再生するための視点を述べ、提言としている。主な内容は、商店街も経営する必要があること、人材育成に取り組み後継者や新規出店者を育てる、マネジメントの実践、農職商の協働により地域資源を活用することなどが挙げられている。